

長女の就学が目前に迫っている頃、私は焦りを感じていました。

長女はダウン症に加えて多動・衝動性の症状も併せ持っていましたので、座って学習することは困難を極めました。落ち着いて学習できる環境を整えてやりたいという思いで、学習機の探索に時間をかけていました。いろいろな学習機を試しましたが、いずれもうまくできませんでした。

就学する前の年末に、ようやく小さな文字で「ダウン症児の椅子を作ります」と書いているサイトを発見できました。「まさか、岡山県じゃないよね」と思いながら住所を見ると、私の職場の近くでした。それが家具のオーダーメイドを手がける横山工房（岡山市中

障がい児の学習機

区）です。私は思わずその会社に電話をして、横山敬一社長に学習機が必要なんだと一生懸命語りかけました。

サイトに出ていた椅子は、横山社長の親戚がダウン症のある赤ちゃんだったので、1歳の誕生日に作った

一日一題

のだそつです。よく聞くと、その赤ちゃんは、私が赤ちゃん体操指導員の資格を取得して初めて家庭訪問をして指導をさせてもらっていた方でした。

2012年1月から横山社長と一緒に障がい児の学習機作りを始める

山陽学園大准教授 上地 玲子

ことになりました。ダウン症のある複数の子どもたちの体を計測し、私が下書きをしたイラストを基に改良を重ね、長女の就学時には完成して自宅と学校で使用するようになりました。

その結果、多動の症状が改善し、数カ月で文字が読めるようになりました。その後も改良を重ね、今では家庭用として発達障がい児の学習機が発売できるようになりました。

見えにくい人が眼鏡を使用するように、集中困難な人には落ち着ける環境が必要なのです。「座りなさい」と叱られなくても、子どもが自分から座って学習できる環境づくりのお手伝いをしていきたいです。

2023・12・26